

「別の弁護者・真理の霊」井上隆晶牧師
使徒言行録2章1～13節、ヨハネによる福音書14章15～21節

①【二つの聖霊降臨、二人の助ける者】

今日は聖霊降臨祭です。ギリシャ語でペンテコステといいます。「50日祭」という意味です。イエス様が復活して50日目に約束されていた聖霊が使徒たちの上に降り、彼らは力を受けて世界宣教に出かけたことを祝う日です。

「一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。」（使徒2：1～2）「激しい風」とあります。「風」という言葉はギリシャ語では「プネウマ」、ヘブライ語では「ルアッハ」と言い、「息とか霊」とも訳されます。ですからこの激しい風というのは「神様の息」なのです。この神の息は、二回にわたって人間に吹きかけられました。最初のアダムは神に創造された時、その鼻に「命の息」（創世記1：7）すなわち神の息を吹き入れられ、彼は生きる者となりました。しかしその後、罪を犯して神から離れたので神の息も去り、彼は死んだのです。ですから聖霊降臨は新しい人間の創造なのです。

第一の聖霊降臨は、復活の日の夜、現れたキリスト自身によって行われました。主は彼の弟子たちに息を吹きかけ「聖霊を受けなさい」（ヨハネ20：22）と言われました。キリストの息は聖霊であることが分かります。キリストの息を受けた弟子は、新しい人間、キリストの体として再創造されたのです。その日から弟子たちは、神の息を呼吸するようになりました。

第二の聖霊降臨は、50日後に聖霊ご自身の意志によって行われました。それが今日です。「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話し出した。」

（使徒2：3～4）とあります。聖霊はその時々、姿を変えて現れます。イエス様が洗礼を受けた時は「鳩」の姿でしたが、使徒たち（教会共同体）の上には「炎の舌」の姿で現れました。鳩の姿はノアの洪水を思い起こさせ、イエス様こそ人々を救う真の箱舟であることを知らせるためでした。炎の舌の姿は、シナイ山における神の炎の言葉を思い起こさせ、神の言葉を世界中に語らせるためでした。聖霊はご自身の思いのままに一人一人にさまざまな賜物を分配します。聖霊は弟子たちに語る力、宣教をさせる力を与えました。彼らは外国の言葉で神の偉大な業を語り出したのです。イエス様は「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。」（ヨハネ14：16～17）といわれました。イエス様は「別の弁護者」と言われました。一人目の弁護者（助け主）がイエス様であり、二人目の弁護者（助け主）が聖霊様です。私たちはキリストと聖霊という二人の助け主によって救われるのです。父なる神は、このお二人をもって世界を創造されたのですから、

世界を救うのもこのお二人が遣わされるのです。でも一体です。

②【聖霊は求める者に降る】

この二つの聖霊降臨は旧約のヨエル書に預言されていました。「主はあなたたちを救うために秋の雨を与えて豊かに降らせてくださる。元のように、秋の雨と春の雨をお与えになる。」(ヨエル 2:23) 春の雨は芽を出すため、秋の雨は収穫するためです。キリスト教徒として信仰の芽が出ても、力のない人がいます。その人はまだ秋の雨、つまり聖霊の力を受けていないのです。ですからひたすら上からの力をくださいと祈らなければなりません。いつ与えられるか分かりませんが待つしかないのです。でも何もしないで待つものではありません。弟子たちの様に祈って待つのです。祈りとは、こちらの受け皿を準備することです。よく耕された土地は100倍の実を結びますが、かたい土地では実を結べないのです。聖霊が来ても、入らないのです。「世は、この霊を見ようとも、知ろうともしないので、受け入れることができない」(ヨハネ 14:17) と主が言われたように、聖霊は求める者、知りたいと思う者、見ようとする者にだけに来てくださるからです。神の力を受けなければ宣教も、教会建築も何もできないのです。人の業はできても、神の業はできないのです。

③【聖霊の働きの神秘】

2世紀のリヨンのエイレナイオスは「神はその両腕、すなわち御子と聖霊によって万物を創造された」と言いました。聖霊は世の始まる前からおられ、天地創造の時、全地を覆って創造に参加なさいました。イエス様の生涯のすべては聖霊に満ちていました。宣教、病気の癒し、悪霊払い、奇蹟はすべて聖霊の力によるものでした。イエス様が復活するのも聖霊の働きでした。正教会の祈祷ではまず初めに「聖霊を呼ぶ祈り」をします。これは東方教会の特徴で、カトリックにも聖公会やプロテスタント教会にも見られないものです。

●「天の王、慰める者、真理の霊、全地にいまし、万物を満たす方、祝福の宝庫なる者、生命を与える主よ、来たりてわれらの内にお住まいになり、われらを諸々の汚れから清めてください。恵み深い方よ、われらの魂をお救いください。」

この祈りは、聖霊はどこにでも居られ、満ちておられない所はない方と祈っています。私は「聖霊」という方を勘違いしていたようです。聖霊は聖霊降臨から現れたのではなく、働き始めたのでもありません。人間はこの世から神を追い出したので、自然界も勝手に動いて回っていると思いついていますが、そうではなく、万物を創造された聖霊が今日も自然界で働き、浸透し、それらに命を与え、動かしておられるのです。「あなたはご自分の息を送って彼らを創造し、地の面を新たにされる。」(詩編 103:30) 聖霊は実によく働かれます。働かれない時はありません。

④【姿は見えないが、キリストの実を結ばせる】

聖霊には「匿名性、透明性」があります。あまりにも謙虚な方なので自分を主張せず、恵みを与えて、自分を消してしまわれるのです。聖霊は自分については教えず、キリスト（真理）について教えます。聖霊を知るためには、それを受けた人を見るしかないのです。イエス様がニコデモに話したように、風は自由に吹きます。音は聞こえてもどこからきて、どこへ行ったのか分かりません。しかし、聖霊という風を受けた者には必ず変化が生まれるのです。それはちょうど天から降った雨が植物に浸透し、自らの姿を消して果実を実らせるようなものです。同じように聖霊が私たちに降ると、自らの姿を消して、キリストに似た実を結ばせるのです。このように聖霊は私たちがキリストに似た者にしようと、今日も働き、私たちの信仰を助けてくださるのです。

●19世紀にサーロフのセラフィムという聖人がいました。モトヴィーロフという医者が見放した病人を癒してから、セラフィムと彼は友人になりました。モトヴィーロフはよくセラフィムの家を訪れ、彼の語ったことをメモしました。「キリスト教徒の人生の真の目的は聖霊の獲得にあるのです。…み言葉である神、私たちの主、神人イエス・キリストは私たちの一生を市場にたとえています。彼はすべての者たちに、私がやってきて時代を救うまで商いをしなさい。というのも日々は悪なのですから、と言われます。つまり地上のものを手段として天上の善を獲得するために、時を用いなさい。」モトヴィーロフが「聖霊の恵みを受けているかどうかやって分かるのか」と聞くと、セラフィムは「私たちは二人とも今、聖霊の中にいます。どうして私の顔を見ないのですか。」と聞くとモトヴィーロフは「あなたの顔は太陽よりも輝いているので、私の目には耐えられないのです」と答えます。今どんな気持ちですか、とセラフィムが聞くと、彼は「この上なく良い気分です。私の中にすばらしい静けさと平安を感じます。心の隅まであふれんばかりの喜びです。温かさを感じます。」と答えます。セラフィムは「神の霊が人の上にくんだり、その溢れる力が彼を覆い尽くす時、人の魂はいいがたい喜びに満たされるでしょう。神の霊は触れるものいっさいを喜びに変えるからです。」と言いました。

聖霊を受けたしるしとは、心の中に「喜び、平和、温かさ」が生まれることなのです。これこそ神の国です。

最後に、イエス様は「父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる。」と言われました。聖霊は私たちと永遠に一緒にいてくださいます。「永遠に」とはこの世を超えてということです。聖霊はこの世で私の中に住まう練習をされたのです。来世では永遠に住むために、私の体を不滅な体に変容します。人間の息が終わっても、神の息は終わりません。それは永遠に私の中で息をしています。だから私たちは息を吹き返し、復活するのです。聖パウロはそのことを「あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かして下さるでしょう。」（ローマ 8：11）と語っています。こうして私が死んでも、神の救いの業は続いており、必ず私たちが完成させてくだ

さるのです。聖霊を受けることが、いかに大事かが分かります。時間を用いて、聖霊を獲得するために祈り続けましょう。